

自立支援部だより

～みんなで考えよう 特別支援教育の専門性～

2022年9月16日 第1号
むこがわ特別支援学校

『授業を通しての支援』って

先日は兵庫教育大学の嶋崎まゆみ先生の来校日でした。中学部の「国語・数学」の4グループの授業を見ていただき、どんな視点を大切に授業づくりをしていくのか、中学部の全クラスの先生、教頭先生、教務情報部長、自立支援部長と共に考えました。各グループへのアドバイスを通して、ヒントとなる言葉をいただいたので紹介します。小学部の先生方とも、むこごとくにとって大切にしたい「授業を通しての支援」について一緒に考えていけたらと思います。

キーワード

(嶋崎先生の話の中で出てきた言葉をもとに質問形式に変えています)

(1) 人による支援

- ・声かけは？(具体的な指示、子どもがわかる言葉で。ガンガン言わずに待つことも大事)
- ・導入の工夫(いきなりプリントを配っていませんか？興味関心のわくスタートを)
- ・興味関心から(題材に教材づくり。最初と終わりに興味あるものを挟む、サンドイッチ型を)
- ・実態把握は？(何ができて、何ができていないのか、課題は？)
- ・フィードバック(子どもの「できた!」に答えていますか？)
- ・達成感(できた感)を持たせるには？「できることの少し上」ばかりはしんどい。できることも。
- ・メリハリありますか？

先生の発問(活動の区切りを意識する。途中で指示を出すのではなく活動前に説明する、など)
子どもの活動(動きを入れる、プリント回収箱まで生徒が持っていく、準備片付けを子どもの活動にする、など)

- ・子ども同士の影響力(ある子がすると他の子の反応につながる)

(2) 物による支援

- ・視覚支援、使っていますか？
- ・スケジュール提示を(1時間の授業メニュー:子どもの実態に合わせて)していますか？
- ・やることの見通しを持たせてますか？(板書する、見本を見せる、実物見せるなど)
- ・環境の調整(机の並び、黒板にごちゃごちゃ貼っていませんか？)
- ・教材の工夫 実態に合わせた教材(実態にあっていますか？)
- ・ipadの活用(例:文字書きソフトをなぞるとき、人差し指を使っていますか？書字につなげる

には、どの指でもいいのではないそうです。)



★教材紹介★

中学部の授業で工夫されていた教材を紹介します。
さいころを振って出た目の数の学習に、このシートとカゴを使用。子どもたちは見通しを持ち、自らブロックを並べて学習に取り組んでいました。